



## 輸送サービス労組は

## 「新人事賃金制度」等について

## いまなお粘り強く交渉しています

●【**ベア**】について、これまでの『物価上昇分を考慮した生活維持向上分は誰にも等しくある』から、『**労働の対価**』として会社の考え方を一方的に押し付けてきたのはなぜでしょうか？

●【**能力昇給**】における**評価基準**を示さないのはなぜでしょうか？

●**平均43,125円**もの賃金改定実施とありますが、いったいどのくらいの社員が平均額以上を受け取れているのでしょうか？

●【**基準額**】について、**生活要素**を排除したのはなぜでしょうか？

●【**株主配当**】は最終決算を鑑みて**柔軟に増配**していますが、なぜ社員の【**夏季手当**】は【**ベア**】との**同時検討**にこだわるのでしょうか？

●会社は事あるごとに『**先行き不透明**』を口にしてきましたが、なぜ**なんの担保もない**中で【**生涯賃金増**】をアピールするのでしょうか？

会社は「**経営の論理**」に基づいて、どのようにしたら人的投資を抑え、“働きざかり”“伸びざかり”の労働力を最大限に活用できるのかを日々模索する中、【**競争**】と【**賃金格差**】を煽ることで社員に「**過度な労働を強いられる**」制度を一方的に実施してきました。しかしながら、公共交通輸送の『**鉄道**』に必要な人事賃金制度とは、「**経験**」や「**チームワーク**」が最大限発揮されて『**安全**』を守っていくのと同時に、全社員が健康的で豊かな生活を基盤に安心して働いていけるものになっていなければなりません。輸送サービス労組は、最後まで諦めることなく、『**誰もが希望の持てる制度**』の実現に向けて取り組んでいきます!!